

# 第10回「東海財界倶楽部」例会 中山厚氏による「経済の見方」



講演する中山厚氏

第一〇回東海財界倶楽部例会が九月一日に開催された。東海地方で活躍する経営者らを中心とした異業種交流会。当日は元東海財務局長で現・中部国際空港監査役などを務める中山厚氏が「日本経済の見方」の演題で講演した。中国ショック、金融緩和、財政健全化など複雑な経済状況を手際よく説明し、その後親睦会に移り、参加者は和やかに歓談した。

九月一日、十八時三十分から行われた例会は、テレビア（名古屋市中東区）一四階、ホテルオークラレストランを会場に参加者約三〇

人で行われた。登壇した中山氏は「経済の現状」から「成長戦略」まで諸課題を二〇項目に分けて列記したレジュメを基に解説。

初めに「今年四〇六月期のGDP（国内総生産）は前期比マイナスと報じられたが、対前年比はプラス、トレンドも好調。ポナナス消費時期の前期と比べればマイナスは毎年のこと。実証データと論理的分析、多面的見方が必要」と指摘。

その後「一九九二年〜二〇一三年は失われた二〇年で、これだけのデフレは世界史上ない」とし「金融緩和、財政出動などの

アベノミクスは基本的に正しい」と評価。

一方で「企業の内部留保三〇〇兆円超はリーマンショック前の二倍で史上最高。これを設備投資、賃上げ、株主還元、企業買収などに活用し、好循環に転換していくことが必要」と唱えた。

さらに一〇〇兆円超の国債など公的債務残の中での財政出動などについては「どこまで、いつまでやるのかの判断が肝要。また公共財でなく私的財の社会保障をどう抑制し税負担との調整をどう方向づけるのかも課題」とした。

まとめとして「分配より稼ぎ、格差より成長、構造改革の本丸は雇用で、労働市場の流動性を向上させるべき」と述べ、最後に「自分の頭で考えて、理論に自信を持つことが大切」と締めくくった。

一七時二十分からの第二部では、会場を同じくして、晚餐を交えた名刺交換会および親睦会を開催。中山氏の周りには多くの参加者が集まり、講演をさらに掘り下げるなど、情報収集に余念がなかった。